

平成28年度各事業所・各委員会事業(活動)計画(概要版)

1 オレンジヒル小岱

オレンジヒル小岱は、特別養護老人ホームオレンジヒル小岱（従来型）、ユニット型特別養護老人ホームオレンジヒル小岱、オレンジヒル短期入所生活介護事業所（ショートステイ）、ユニット型オレンジヒル短期入所生活介護事業所、オレンジヒル通所介護事業所（デイサービス）、オレンジヒル居宅介護支援事業所及び荒尾市老人介護支援センターの7つの事業所で構成しています。

施設の基本方針は、法人の基本理念に則り、ご利用者、ご家族の尊厳と人権を尊重しながら、心の通ったサービスを提供します。また、施設で最期を迎えたいというご利用者に対しては、その人らしい最期を迎えられるようにご家族、ご利用者、嘱託医と連携を図りながら看取り介護に努めます。

具体的には、従来型特養については、ご利用者に寄り添い、プライバシーに配慮し、安全、快適、思いやりに基づく尊厳ある介護に努め、職員間の情報の共有によるサービスの均質化とサービスの質的向上を図ります。また、ご利用者の健康管理に留意し、虐待防止に積極的に取り組み、ご家族との連携強化により信頼関係を築きます。

次にユニット型特養についても、基本的には従来型と同時ではありますが、ユニットの特色を生かし家庭的雰囲気大切に生活支援と介護に努めます。

短期入所生活介護事業所は、短期利用であることから、入所前調査により、生活上状況、趣味や生活歴等を十分把握し、日常生活の個別支援、健康管理等の支援を通じて、在宅での生活の維持継続を基本と考えサービス提供を行います。ユニット型についても同じです。ただ、従来型は、6床が独立してあることから、稼働率の向上に努めますが、ユニット型は、空床利用のため事実上ご利用者はありません。

通所介護事業所は、主役はご利用者であることを意識したサービス提供に努め、ご利用者、ご家族からの信頼を得て、1日平均25名の利用者確保に努めます。また、昨年度から導入した作業療法士による個別訓練をより充実させ、利用者に満足して頂くための積極的な外出行事の実施、さらに地域との連携として、地域の美化作業に参加し、地域とのより良い関係を築きます。

居宅介護支援事業所は、住み慣れた地域で、在宅で現有能力を生かした日常生活が続けられるようご利用者と積極的に関わると同時に、医療、居宅サービス、行政など様々な分野と協働し、新たな利用者確保に努めます。

荒尾市老人介護支援センターは、荒尾市の委託事業として、地域からの相談窓口、地域包括支援センターへ相談をつなぐ窓口としての業務行うために、地

域の民生委員、高齢者相談員、行政協力員などと交流をもち、地域支援に努めます。

2 オレンジヒル小岱委員会

オレンジヒル小岱は、ご利用者、ご家族から満足して頂く施設にするためと働きやすい職場環境を維持するため、14の委員会がそれぞれの役割をもって活動します。

まず、施設運営委員会は、施設全般の円滑な運営による、ご利用者の安全と健全な職場環境の維持に努めます。

広報委員会は、施設の状況や福祉情報を発信するため、ホームページの更新と年3回の広報紙を発行します。

防災委員会、ご利用者や職員を守るために防災訓練等を実施します。

行事实行委員会は、ご利用者が楽しい生活を施設で送って頂くために様々な行事を行います。

福利厚生委員会は、職員間の親睦を図るため職員旅行、暑気払い、新年会等を開催します。

環境美化委員会は、ご利用者、職員に衛生的な環境を提供するため、草取り、清掃、防虫駆除等を行います。

入退去検討委員会は、入所希望者、特例入所申込対象者台帳を整備し、入所退去のスムーズ決定と入退去過程の透明性公平性確保に努めます。

研修委員会は、職員の資質向上に努めることにより、ご利用者のサービス向上に寄与します。

感染症予防委員会、事故防止対策委員会、身体拘束廃止委員会、褥瘡予防委員会、給食委員会は、それぞれの委員会が、ご利用者の施設生活を、より安全・安心そして満足していただくために活動します。

衛生委員会は、職員の健康管理と職場の安全を確保するため活動します。特に本年度から心身の健康維持のため、法律に基づくストレスチェックを実施します。

3 高齢者総合ケアセンター共生の里津福

共生の里津福は、開設以来7年を経過し、平成28年度は開設8年目を迎えることとなります。この間、高齢者福祉を取り巻く環境は大きく変化し、毎年その厳しさを増している状況となっております。平成26年度まではそう大きな問題と認識していなかった介護職員の不足が、27年度には急激に問題化し、

28年度におきましてはさらにひっ迫の度合いが強くなるものと予想されます。

津福及び荒木が立地しております久留米市におきましては、第6次介護保険事業計画により、平成28年度中に新規に5か所(145床)の地域密着型特養を整備することとされており、事業者の選定も終了し、あとは着工を待つばかりという状況となっております。

今でさえ、介護職員が不足し、事業の運営に支障をきたしている状況であるのに、新規施設が同時に5か所開設するということになれば、新たに百数十名の介護職が必要となり、介護職不足に、より一層拍車がかかるのは火を見るより明らかであると言えます。

また、最近では、特養待機者が減少しており、津福におきましても約50名程度の待機者がおられますが、空床が出た場合にご連絡を差し上げると、「まだいいです。」とか「サービス付き高齢者向け住宅に入ったばかりだから」などという理由でお断りになられる方が激増しており、介護職員のみならず、入居者の確保にも事欠く状況となっております。

そのような状況の下、平成28年度の事業計画におきましては、さらにご利用者から選ばれる施設になるための条件整備、あるいは、介護職員から選ばれるための労働環境の整備等を積極的に推進していく必要があるとの認識を基礎として、事業計画案を作成しております。

ユニット型特養におきましては、例年通り、「ご利用者本位のケア」「ご利用者の尊厳を守るケア」を基本方針に据え、個別ケアのさらなる徹底に取り組んでまいります。そのため、24時間シートの完成度を高め、24時間シートに基づいたケアの提供、記録の実施を行ってまいります。実は、平成27年度に社団法人日本ユニットケア推進センターが実施しておりますユニットリーダー研修の現地研修施設・・・各県に1か所程度・・・としての指定を受けるべく手を挙げたわけですが、残念ながら不合格となりました。私たちが行っているユニットケアはまだ未熟であると思い知らされたわけですが、その結果を踏まえ、最も減点対象とされました24時間シートにつきまして、その充実に取り組んでまいりたいと考えているわけですが、

併せて、ご利用者の尊厳を守るケアの実施ということで、ご利用者に対する接遇の充実にも取り組んでまいります。

次にショートステイにおきましても、特養と一緒に24時間シートに基づくケアの提供及び記録の整備ができますよう、さらに取り組みを深めてまいります。また、平成26年度実績で、年間稼働率90パーセント以上を達成いたしました。28年度におきましても、同様の稼働率を目指し、さらなるサービスの向上を図ってまいります。

デイサービスセンターでは、1日当たり要介護者28名、要支援者2名のご利用を目標として掲げ、「ご利用者主体のサービス」を提供してまいります。そのため、各種催し物をはじめ、趣味のクラブの充実などを図るとともに、衛生環境の整備、専門的機能訓練の実施などを行ってまいります。

ケアプランセンターでは、「住み慣れた地域でいつまでも自分らしく」生活できるよう支援するという基本方針の下、ケアプランの質の向上を図るとともに、関係機関との協力連携を拡大します。また、28年度からケアマネ4名体制をとることとしており、特定事業所加算Iを取得し、収入のさらなる増加を図ってまいります。

小規模多機能型居宅介護事業所におきましては、地域密着型事業所として地域との連携をさらに密にし、地域に必要とされる事業所としてサービスを提供してまいりたいと考えております。そのため、地域行事への積極的な参加や、地域の回覧板を活用した事業内容の紹介などを通して、利用登録20名を目標にご利用者の増加を図ってまいります。

給食課におきましては、安全でおいしい食事の提供はもちろんのこと、28年度、特に食べやすい食事の形態という点に着目し、共生の里荒木で実施しておりますようなソフト食の充実に取り組んでまいります。

また、看護課におきましては、今年から義務化されました職員のメンタルヘルスに係るストレスチェックにつきまして、その実施と高ストレス職員に対するフォローに新たにに取り組んでまいります。

4 共生の里津福委員会

共生の里津福では、平成28年度、例年通りの14委員会において活動を行ってまいります。

設置が義務付けられております4委員会(入所判定、褥瘡対策、感染症対策、身体拘束廃止)におきましては規定されております活動内容をもれなく実施してまいります。

また、互助会におきましては、28年度は、開設以来初めてとなります職員旅行の計画を検討したいと考えております。

広報委員会におきましては、28年度からホームページの内容が変更になり、操作が簡単になることに伴い、ホームページを頻回に書き換えるなど、インターネットを活用した広報活動を行ってまいります。その他の委員会につきましても、例年同様活動してまいります。

5 高齢者総合ケアセンター共生の里荒木

共生の里荒木は、平成27年度から、共生の里津福のサテライト施設として運営を行ってまいりました。しかしながら、津福と同様の慢性的な介護職員不足に見舞われ、さらには待機者不足も重なり、日々の介護業務を消化することで精一杯という現状にあります。職員の退職は相変わらず多く、職員が不足、そのため、入居者に対するサービスの質向上がなかなか進まず、売り上げも上がらないといった悪循環が断ち切れないのが現状です。

そのような中でも、津福同様、ご利用者にも介護職員にも選ばれる施設にならないと生き残れないという共通認識の下、まずできることから始めようとの思いで28年度事業計画案を策定しております。

まず、ユニット型特養ですが、施設の理念である「仕事を楽しもう」「笑顔でいよう」を基本に、ご利用者の「その人らしさ」を大切にケアを行ってまいります。また、ユニットケアを標榜する施設にあって、本来のユニットケアの理解が、職員が入れ替わることにより進んでいないと考えられる部分もあるため、まずはユニットケアに対する理解を共有することから始めてまいります。その上で、個別ケアの充実や24時間シートの取り組みなどを実施してまいります。

ショートステイでは、在宅生活の延長をテーマとして、平均稼働率85パーセント以上を目標にしてまいります。また、ウェルカムドリンクの実施など利用者サービスの向上に努めてまいります。

デイサービスセンターにおきましては、例年同様、ご利用者の確保に重点を置き、専門的なりハビリの提供、特色のある事業所の構築などを行ってまいります。

小規模多機能型居宅介護事業所では、地域包括ケアシステムの一拠点として積極的に地域包括支援センターをはじめとする関係機関と連携を取りその役割を果たしてまいります。また、登録定員を増やしてまいります。

給食課におきましては、他施設からも高い評価をいただいているソフト食のさらなる充実に取り組んでまいります。

看護課では、津福同様、職員のメンタルヘルスケアに取り組んでまいります。

6 共生の里荒木委員会

共生の里荒木におきましても、平成28年度、例年通り津福よりも一つ多い15委員会において活動を行ってまいります。

設置が義務付けられております4委員会(入所判定、褥瘡対策、感染症対策、身体拘束廃止)につきましては規定されております活動内容をもれなく実施し

てまいります。介護業務改善委員会におきましては、施設理念をどのように実現していくのか、何が必要かを考えてまいります。接遇エコ対策委員会では、接遇チェックシートの配布やエコ意識アンケートの実施などを計画しております。

また、総務委員会では、地域に根差した施設となるよう地域行事への積極的な参加を行うとともに、施設行事への地域住民の参加を呼び掛けてまいります。その他の委員会につきましても、例年同様活動してまいります。